

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第7号を下記のとおり発表したの送付します。

令和6年度病害虫発生予報第7号

令和6年9月30日  
岡山県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水 稻	トビイロウンカ	—	やや少
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	<b>多</b>
果 樹	カメムシ類	—	並
キュウリ	褐斑病	—	並
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	—	並
アブラナ科野菜	ハクサイ白斑病	—	やや少
	ハクサイべと病	—	並
	軟腐病	—	並
	黒腐病	並	並
	コナガ	—	<b>やや多</b>
	ヨトウガ	—	並
	アブラムシ類	—	やや少
	モザイク病	—	並
	ハスモンヨトウ	—	<b>多</b>
ハイマダラノメイガ	—	並	
オオタバコガ	—	並	
キ ク	ナミハダニ	—	<b>やや多</b>
	オオタバコガ	—	並

## 1. 普通作物

### (水稲)

#### 1) トビイロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月24～25日の巡回調査(中南部地帯)における発生ほ場率は0%で平年(24.4%)より低かった。

イ. 赤磐市の予察灯における9月1半旬～4半旬の誘殺数は、0頭で平年(5.0頭)よりやや少なかった。

ウ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 令和6年度植物防疫情報第8号(8月29日発表)参照。

### (ダイズ)

#### 1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は2,594頭で平年(2270.5頭)よりやや多かった。

イ. 9月2～5日の巡回調査における白化葉(被害葉)の発生圃場率は34.8%で平年(8.1%)より高かった。

ウ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 令和6年度病害虫発生予察注意報第2号(9月11日発表)参照。

## 2. 果樹(全般)

### 1) カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における9月1～4半旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシは75頭(平年71.7頭)、クサギカメムシは5頭(平年7.1頭)と平年並、ツヤアオカメムシは72頭(平年127.4頭)と平年よりやや少なかった。また、フェロモントラップにおける同期間のチャバネアオカメムシの誘殺数は、24頭と平年(35.5頭)よりやや少なかった。

防除上の参考事項

ア. 9月下旬以降主要種はツヤアオカメムシである。

イ. 令和6年度植物防疫情報第6号(8月8日発表)参照。

## 3. 野菜

### (キュウリ)

#### 1) 褐斑病

予報内容

発生量 並  
予報の根拠

ア. 9月24日の巡回調査によると発生圃場率は60.0%で、平年(89.3%、過去10年のうち7年間は100%)よりやや低かった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

(キュウリ、ナス)

1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容  
発生量 並  
予報の根拠

ア. 9月24、25日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

1) ハクサイ白斑病

予報内容  
発生量 やや少  
予報の根拠

ア. 9月24、25日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(24.7%)より低かった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 秋作では生育中期から結球期に初発生することが多いので、初期防除を徹底する。

2) ハクサイべと病

予報内容  
発生量 並  
予報の根拠

ア. 9月24、25日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(9.6%)並であった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

3) 軟腐病

予報内容  
発生量 並  
予報の根拠

ア. 9月24、25日の巡回調査によると、ダイコンでは発生を認めず、発病圃場率は平年(23.4%)より低かった。ハクサイでは発生を認めず、平年(1.3%、過去10年のうち9年間は0%)並であった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

4) 黒腐病

予報内容  
発生時期 並

発生量 並  
予報の根拠

ア. 9月24、25日の巡回調査によるとキャベツでは発生を認めず、平年（3.3%、過去10年のうち9年間は0%）並、ハクサイでは平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

5) コナガ

予報内容  
発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は1頭で、平年（1.9頭）並であった。

イ. 9月24、25日の巡回調査によるとダイコンでは発生圃場率が83.3%で平年（53.1%）より高く、キャベツでは0%で平年（6.0%）並、ハクサイでは0%で平年（1.0%）並であった。

ウ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件である。

6) ヨトウガ

予報内容  
発生量 並

予報の根拠

ア. 9月24、25日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件である。

7) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容  
発生量 アブラムシ類 やや少  
モザイク病 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の黄色水盤における9月1～4半旬の飛来数は133頭で平年（1229.2頭）より少なかった。

イ. 9月24、25日の巡回調査によると、ダイコンでは発生圃場率が0%で平年（7.4%）よりやや低く、キャベツでは0%で平年（1.7%）並、ハクサイでは0%で平年（0%）並であった。

モザイク病は、ダイコンでは発生圃場率16.7%で、平年（18.7%）並で、ハクサイでは発生を認めず、発生圃場率は平年（0.9%）並であった。

ウ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件である。

8) ハスモンヨトウ

予報内容  
発生量 多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は2,594頭で平年（2270.5頭）よりやや多かった。

イ. 9月24、25日の巡回調査によると、発生量は平年よりやや多かった。

ウ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 令和6年度病害虫発生予察注意報第2号（9月11日発表）参照。

9) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月24、25日の巡回調査によると発生量は平年並であった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件である。

10) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は2頭で、平年（2.2頭）並であった。

イ. 9月24、25日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件である。

4. キ ク

1) ナミハダニ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 9月24、25日の巡回調査によると発生圃場率は42.8%で、平年（7.3%）よりやや高かった。

イ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件である。

2) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～4半旬の誘殺数は2頭で、平年（2.2頭）並であった。

イ. 9月24、25日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月26日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

